

社会開発委員会

委員長 重松 崇之

所信

過酷で激動の時代の最中であって、挫けることなく前を向き、変化に対応するに留まらず、むしろ時代に先駆けて明るく豊かな社会を築くための事業を展開するためには、メンバー一人ひとりの叡智を結集させるとともに、メンバーが持てる能力を存分に発揮することが必要不可欠です。それを可能とするために、まずは、委員長として、次の5つを理念として委員会を運営いたします。すなわち、1つめは、メンバーの「生の声」を聴くことに努めます。2つめは、早めの指示を意識してメンバーの時間的余裕を確保します。3つめは、失敗を経験しようとも、その原因を特定のメンバーに求めるのではなく、「仕組み」により克服してまいります。4つめは、委員会活動を徹底的に見える化し、メンバーがいつでもやりがいを持って楽しく参加できるように、こまめな情報提供に努めます。5つめは、一人として取り残すことがないよう、スタッフによる充実したフォローアップ体制を整えます。私は、こうした足元の環境整備こそ、常に最重要課題であることを肝に銘じて委員会運営にあたります。

そして、事業を構築するにあたっては、まずもって事業の目的とイメージをメンバー間でしっかりと共有した上で、早めに準備の計画を立ててこれを周知し、メンバーの特長や希望を踏まえて適切に役割を分担することによって、メンバー一人ひとりの時間を大切にしつつ、各人の持てる能力を存分に発揮できるようにいたします。

さらに、事業の準備過程を通じてデジタル技術の導入を促進し、これを駆使して事業準備のさらなる効率化を目指してまいります。

また、本年度創立65周年を迎える岸和田J Cの周年事業にも積極的に参画し、万難を排して、必ずこれを成功に導く所存です。

最後に、国の内外から聞こえてくる悲惨なニュースに心が痛まない日はないですが、本年度は「65th Fast Innovation」～想像した未来は必ず創れる～のスローガンの下、明るく豊かな社会の実現を願い、想像し、断じて挫けず、諦めず、自分自身と仲間を信じ抜いて、1年間、全力で邁進してまいります。